

伊藤律 昭和 社會運動家。大正二年八月二十七日岐阜縣土岐生れ、平成元年八月七日歿（九三一元）。第一高等學校文科二年の時、不穩思想の嫌より放校處分。日本共產黨に入黨、昭和八年檢舉。出獄後滿鐵（南滿洲鐵道株式會社）東京支社勤務と再檢舉せられ、ゾルゲ事件發覺に關與。戰後徳田球一書記長の下の政治句買となり黨再建に従事。二十五年ハム職追放處分を受け、徳田等と地下活動に入り、翌年密出國。二十八年スパイとして黨を除名、五十五年歸國した。

著書 『農民の訴ふ』（昭和二十一年四月十日日本共產黨出版部）『人民解放叢書』（『民主主義革命に於ける土地・農民問題』（昭和二十一年八月）二十五日日本橋書店）、『青春の歡びの中心—私の學生の頃—第一集』（合著・學生書房編集部編、昭和二十二年十一月十五日學生書房）、『私の青春時代』（合著・九州評論社編集部編、昭和二十二年八月）二十日福岡・九州評論社）、『農民のたぐひ』（昭和二十二年九月）二十日日本共產黨出版部）、『農業革命の基本問題』（昭和二十二年十一月）二十日前進社）、『農民闘争』（昭和二十四年十一月）十五日ナウカ社）『ナウカ講座』（『伊藤律回想録—北京幽閉—（七年）』（平成五年十月十五日文藝春秋）等。毎日新聞社編『伊藤律陰の昭和史』（昭和五十五年七月十日毎日新聞社）がある。

